

南仏治安情報（11月分）

● テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

（1）ニースのカーニバル時期を狙ったテロ計画の未然防止

11月初旬にテロ対策当局が発表した「テロ未然阻止事例報告」によると、今年2月にカンヌ近郊で逮捕され潜伏先から爆発物を押収された男が、逮捕の2日後に開催されたニースのカーニバルでの爆破テロを企てていたとのことであった。この男の逮捕は同人がシリアから帰還した直後になされたものであり、当局の存在感を示す事案であった。

（2）アヴィニョンにおける、シリア帰還兵の逮捕

6日未明、シリアから帰還した20代の男2名が「テロ活動準備を目的とする犯罪集団」容疑で当局に逮捕された。被疑者らに犯歴はなく、シリア渡航前に地元モスクに通っていたわけでもなかった。

（3）ニースにおけるジハーディスト志願者の増加現状と対策

ニース市はこの程、同市に居住していた約100名がジハーディストとしてシリアへ渡っている現実につき言及した上で、今後2ヶ月の間に無料のホットラインを設置し、行方不明者相談を受けると発表した。

（4）タルヌ県ラバスティ・ド・ルエルー出身者の「イスラム国」宣伝ビデオ出演

25日、「イスラム国」宣伝用ビデオ上で、「不信心の者を殺すべし」とフランス語で唱え、旅券を焼く3人の男の内1人が26歳仏人であることに住民が気づき、地元で衝撃を与えた。

（5）アルジェリア発生ニース出身者殺害事件：犯人1名の殺害

9月にアルジェリア旅行中のニース在住フランス人を誘拐し斬殺した事件につき、26日、アルジェリア司法相は犯人であるイスラム過激派の1名を殺害した旨公表した。アルジェリア軍が被害者の遺体を捜索中、暗殺集団（約15名）を発見した模様。この同過激派は、「イスラム国」を信奉する旨表明していた。

● 殺人（邦人被害なし）

（1）ヴォークリューズ県サブレ発生、元夫婦の喧嘩から発展した殺人事件

1日未明、たまたまレストランで鉢合わせた離婚済カップルが口論を始め、それを宥めに入ったそれぞれの友人同士も巻き込んでの喧嘩となった。双方は店の外に出て一旦は諍いが収束したかに見えたが、一人が車から鉄の棒を持ち出し相手側の男性の頭部を殴打し同男性を殺害した。犯人は逃走したが数時間後に逮捕された。

（2）エクサン・プロヴァンス近郊発生、若者グループの喧嘩が原因とみられる殺人事件

2日早朝、エクサン・プロヴァンス近郊にあるディスコの駐車場で、車に引きずられた痕跡のある男性遺体が発見された。この夜、同ディスコ店内で2グループ間の争いが発生していたことから、警察は若者同士の喧嘩が原因とみて捜査を進めている。

（3）コルシカ島オート・コルス県発生殺人事件：犯人グループの逮捕

今年3月アレリアで発生した県議会事務局長暗殺事件に関し、当局は5日、本件に関与した約10名を逮捕した。この事件は、バイクに乗った二人組の銃掃射を浴びた被害者が殺害されたもので、組織的犯行と目されていた事件であった。

(4) BDR県トレッツ発生、殺人とみられる変死事案

6日午後、アパート4階の自室内で43歳男性が死亡しているのを、近隣住人の異常通報を受け同所に突入した消防隊が発見した。男性の遺体は既に腐敗しており腹部に銃で撃たれた痕があったが、犯人像や侵入経路等は不明である。

(5) コルシカ島オート・コルス県発生、対立抗争とみられる殺人事件

7日午後、バスティアから20kmほど離れた村コル・ド・カンポで男性の遺体が発見された。この男性はかつてけん銃所持の罪で服役する等警察にマークされた者であり、本件はジョギング中待ち伏せしていた何者かに銃殺されたものとみて捜査が進められている。

(6) BDR県トレッツ発生、衆人環視下での殺人事件

14日夕方、トレッツからサン・マキシマムに続く幹線道路上で57歳男性が何者かに射殺された。被害者は追っ手の車から逃れるべく車を走らせていたが、追跡者が被害者の車に発砲してきたことから車を捨て近くの商店に逃げ込もうとしたが、車を降りて追ってきた男2名に撃たれて死亡した。現実離れした事件の発生に現場は騒然とし、駆け付けた警察は被害者が麻薬組織に属する犯歴保有者であることから、本件を対立抗争とみて捜査を開始した。

(7) エロー県ベズィエ発生、不倫口論に端を発した殺人事件

15日未明、妻の外出に気付いた夫が妻を探しに出たところ、隣人宅で不倫していることが判明、隣人宅に乗り込んだことから口論が始まった。以後男性は娘連れ妻の説得に当たっていたが、激昂した隣家の男(62歳)が娘を銃で撃とうとしたことから立ち塞がって娘をかばい、男に頭を撃ち抜かれ死亡した。男はすぐに逮捕され、妻はショックにより病院へ搬送された。

●強盗(邦人被害なし)

(1) マルセイユ発生、不可思議な強盗未遂事件

1日未明、9区ヴァルモン通りの邸宅に武装した男4名が押し入った。男らは住人を銃で脅しガレージにある車2台の鍵を入手したが、何故か車を奪わず徒歩で逃走した。車が高級車でなかったことが理由とみられる。幸い住人に怪我はなく、結局被害もなかった。

(2) マルセイユ発生、道路封鎖による強盗事件

11日夜、レストランを経営する男性が車で帰宅中、9区自宅付近のLattre de Tassigny通り上で別の車に道を塞がれ、停車したところを銃で脅し付けられた。犯人グループは男性の車に乗り込み、2台で人気のないカランク Sugiton方面へ移動した後、男性の所持品を強奪し、さらに男性と車にガソリンを撒いた。男性は命からがら逃走することに成功したが、警察が駆け付けるまでの間に男性の車は燃やされていた。

(3) マルセイユ発生、ガソリンスタンドでの強盗事件

13日夜、5区サカキニ通り上のガソリンスタンド TOTAL で元市議会委員の男性が給油していたところ、やって来た大型バイクの男に銀行カードを奪われてしまった。犯人の逃走を食い止めようと被害者がバイクの前に立ち塞がったとき、たまたま給油に訪れた入管警察の非番警官が、被害者を轢いて走り去った犯人を追跡し、犯人が落とした銀行カードを回収した。被害者は本件で脚を負傷したが財産被害は免れた。犯人については盗難バイクを使用していたことが後に判明、未だ逮捕には至っていない。

●傷害（邦人被害なし）

（1）マルセイユ発生、メトロ駅構内における通り魔事件

10日夕方、5区にあるメトロ「ティモンヌ駅」で、26歳男性が何者かにナイフで3回刺される事件が発生した。警察は駅構内の防犯カメラを解析し、翌日犯人と思しき容疑者を逮捕した。

（2）エクサン・プロヴァンス及びマルセイユ発生、若者らによる集団傷害事件

23日朝、ディスコの駐車場において若者2グループ間の喧嘩が勃発した。催涙ガスも投入され、怪我人も出たことから数名がマルセイユ北病院に搬送されたが、搬送されなかった若者らは相手方を追跡すべく同病院へ赴き、院内でけん銃を3度発砲した。この発砲による怪我人は出なかったものの、パニック症状に陥った者も出た。

●薬物関連

（1）マルセイユにおける、麻薬密売人の現行犯逮捕

15日未明、2区シュヴァリエ・ポール通りで麻薬密売人3名が現行犯逮捕された。本件は、同所をパトロールしていた警官が迷惑駐車車両を発見し、車の所有者に職務質問したことが端緒となったもので、犯人所持品及び車内からはコカイン・大麻の他に売上金とみられる現金6,000ユーロが押収された。

（2）マルセイユにおける、大麻樹脂売人の逮捕

25日、司法警察はマラガ（スペイン）からマルセイユへ大麻樹脂167kgを運び込んだ31歳の男とその従兄弟23歳を逮捕した。本件は今年5月から当局が犯人らをマークし続け今回の逮捕に漕ぎ着けたもので、14区シテ内の犯人潜伏先からは大麻樹脂の他にサイレンサー付自動小銃も発見・押収された。

●その他特異事件（邦人被害なし）

（1）マルセイユにおける、要救護者による救急隊暴行事件の頻発

マルセイユでは、救急隊員に対する暴力行為が頻発している。しかも「要救護者によって」というのだから驚きである。1日夜には、1区カヌビエールで割れた瓶の破片により負傷した男性を病院に搬送すべく駆け付けた救急隊員が、ガラス片を手にした男（要救助者）に切りつけられそうになり、警察に応援要請した。救急隊によると、警察の介入を求めざるを得ない事態が1日あたり280件ほど発生しており、そのうち3分の2以上が要救助者による暴力行為が原因だという。

(2) マルセイユ発生、警官によるけん銃横領事件

6日、15区所在のBAC（犯罪抑止部隊）に所属する警官が、施設内に保管されていたけん銃を横領し自宅に持ち帰っていたことが判明し、逮捕された。この警官の家宅捜索を実施した結果、署内に厳重保管されているはずのけん銃4丁が見つかった。なお取り調べに対しては犯行を素直に認めているという。

(3) ガール県発生、原発施設上空の小型無人機飛行事件

7日未明、マルクール原発上空を不審な小型無人機が飛行する事案が発生した。同種事案は10月1日以降仏国内で15回以上発生しており、当該行為が違法であることから当局が監視を強化し、5日の時点でシェール県在住の男3名が逮捕されたが、彼らは原発付近で遊んでいたラジコン愛好家に過ぎなかったことが判明し、既に釈放されている。本件は現在まで犯人の特定には至っておらず、当局による追跡作業が続いている。

(4) マルセイユ発生、殺人犯（留置人）の逃走

11日午前、精神鑑定のため一時入院していた23歳留置人が、入院先の15区内精神病院から逃走した。この男はディーニュで殺人をした罪で逮捕・拘留されていた。

(5) マルセイユ発生、恐喝未遂事件

12日、会社間の債権トラブルを発端として、一方の会社社長を被害者とする銃器使用の恐喝未遂事件が発生した。被疑者は相手会社の人間2名で、被害者から1万ユーロを脅し取ろうとしたところを警察に察知されたもの。警察は既にこの2名を逮捕し事実関係を詰めている。

(6) マルセイユ発生、銅線盗事件

この度、16区レスタック地区にあるSNCF敷地内の倉庫から銅線2km分が盗まれる被害が発生した。

(7) マルセイユ発生、サッカーチームを取り巻くマネロン事件

18日、マルセイユの判事はサッカー・チームOMの代表者3名及び現社長の計4名を、資金洗浄、会社財産横領、組織犯罪集団による資金強要・隠匿の容疑で拘束した。

本件の発端は、2009年1月にオート・コルス県カレンザナで発生した犯罪集団「フェデリシ組」側近暗殺事件捜査のために実施した電話盗聴で、これによりサッカー界の選手代理人を巻き込んだ資金横領、選手への圧力、選手移籍に伴う裏手数料の疑惑が浮かび上がってきた。OMが裏社会の関心を惹くことは以前からよく知られたことではあるが、盗聴過程でその「筋」の者の名前が挙がり、OM監督とギャング団幹部とが市内のファースト・フード店で落ち合ったことも判明した。

(8) 南仏各地発生、豪雨による河川の氾濫

地中海沿岸を襲った豪雨によって河川が氾濫し、27日にはヴァール県ラ・ロンド・レ・モールで8歳少女が行方不明となり、30日にはピレネー・オリアンタル県リーヴ・サルトで沈下橋を車で渡河中の73歳男性が死亡するなど、少なくとも4名以上の死者が出る惨事となった。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。